

おわりに

国立特別支援教育総合研究所においては、各校におけるキャリア教育の推進に伴い、障害種別における調査を実施しました。本調査では、幼稚部から高等部までの各段階におけるキャリア教育の取組の現状について把握することができました。本調査からは、例えば、関係諸機関との連携においては、各発達段階に対応した連携の実態が示され、キャリア教育とは、「幼児児童生徒一人一人のキャリア発達を促す」という原理に従って、各学校での実践が浸透しつつあることがうかがわれました。

かつて特別支援学校（聴覚障害）においては、「手に職をつける」ことを目指してきた経緯がありますが、キャリア教育の考え方の浸透に伴い、一人一人の子どもの「心の醸成」が求められています。本調査の結果から各発達段階（各学部間）の連携が一層重要であると思われました。

また、本調査では、各学部主事とキャリア教育を担当されている教員を対象に実施しました。各質問項目については、両者間に大きな意識の違いはなく、問題意識の共有化が図られていることが示されました。

今後も研究班としては、経年的に本調査を実施し、多様性を増す聴覚障害のある幼児児童生徒に対するキャリア教育の推進に資する資料を提供していきたいと考えております。

最後に、短期間の調査にも関わらず本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきました特別支援学校（聴覚障害）の校長先生はじめ教員の皆様に、深く感謝申し上げます。

平成 29 年 9 月

聴覚障害教育研究班

原田 公人